

追加資料

象牙国内市場の動向と違法取引の概況

TRAFFIC提供追加資料
2020年1月28日



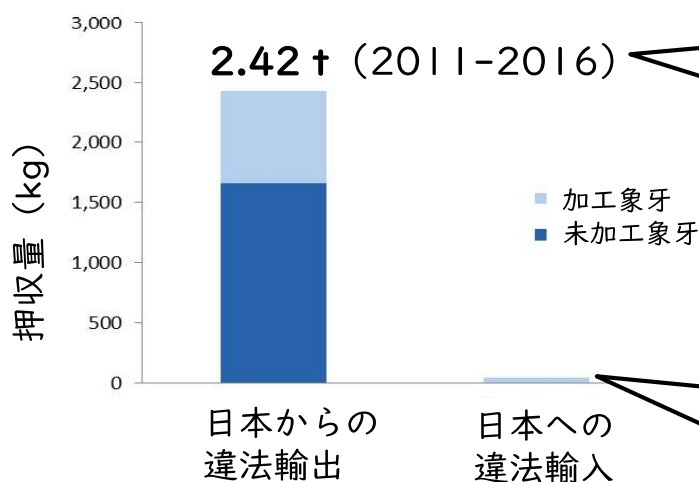
©Martin Harvey / WWF

TRAFFIC
the wildlife trade monitoring network

密猟・違法取引に対する日本の関与

TRAFFICまとめ (2017年)

- ✓ 近年は密猟の要因になっていないと評価
- ✓ 一方で、日本からの違法輸出による押収が2011年以降増加



2.42 t (2011-2016)

95%が中国向け輸出
うち、中国当局による押収が
94%、日本での押収は6%

少ないが、他国の報告と
比較すると、日本の押収件数が
ヨーロッパ諸国に比べても
極端に少ない

TRAFFIC・日本による市場調査

販路のカテゴリー	再訪した2017年の調査場所	2018年新たに追加した場所
1 屋内骨董フェア	東京1: 平和島骨董まつり	愛知: なごや骨董フェスタ
	東京2: 骨董ジャンボリー	
	埼玉: さいたまスーパーアリーナ骨董アンティークフェア	
	京都: 京都アンティークフェア	
2 屋外骨董市	東京1: 大江戸骨董市 (東京国際フォーラム)	東京2: 富岡八幡宮骨董市
	大阪: 四天王寺骨董市 (四天王寺)	東京3: 護国寺骨董市
	京都: 弘法市 (東寺)	
3 骨董・古美術街	東京1: 銀座/京橋/日本橋アートエリア	東京2: 青山骨董通り
	大阪: 老松町古美術街	愛知: 名古屋骨董エリア
	京都1: 鴨東古美術會	石川: 金沢骨董エリア
	京都2: 寺町美術通り	
4 観光エリアと象牙専門店	東京: 浅草、御徒町、日暮里	なし
	*京都: 清水寺など	
	*大阪: 四天王寺など	
5 ハンコ販売店	なし	東京(18)、京都(2)、大阪(2)、岩手(4)、石川(2)、愛知(1)、青森(4)、神奈川(4)

*2017年に調査した場所のうち2018年に再調査しなかった場所

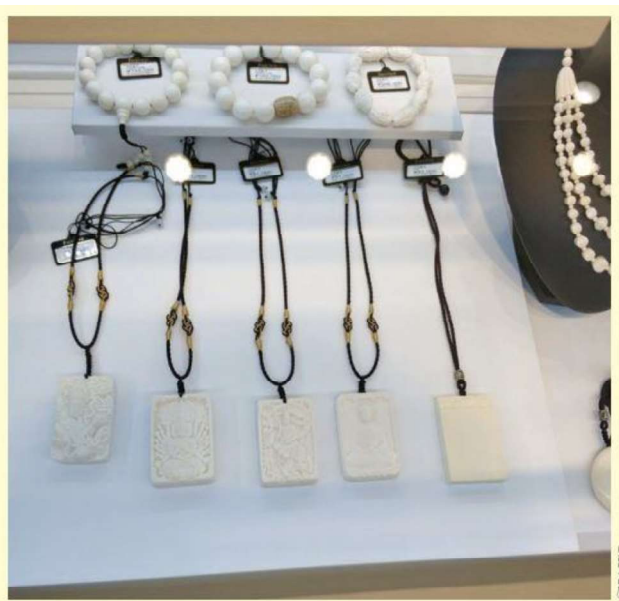
TRAFFIC市場調査2018年

TRAFFIC
the wildlife trade monitoring network

出典:

https://www.wwf.or.jp/activities/data/20180927_wildlife01.pdf

✓ 海外市場向けデザイン製品の製造・販売



2018年新たに開店した店舗も確認！

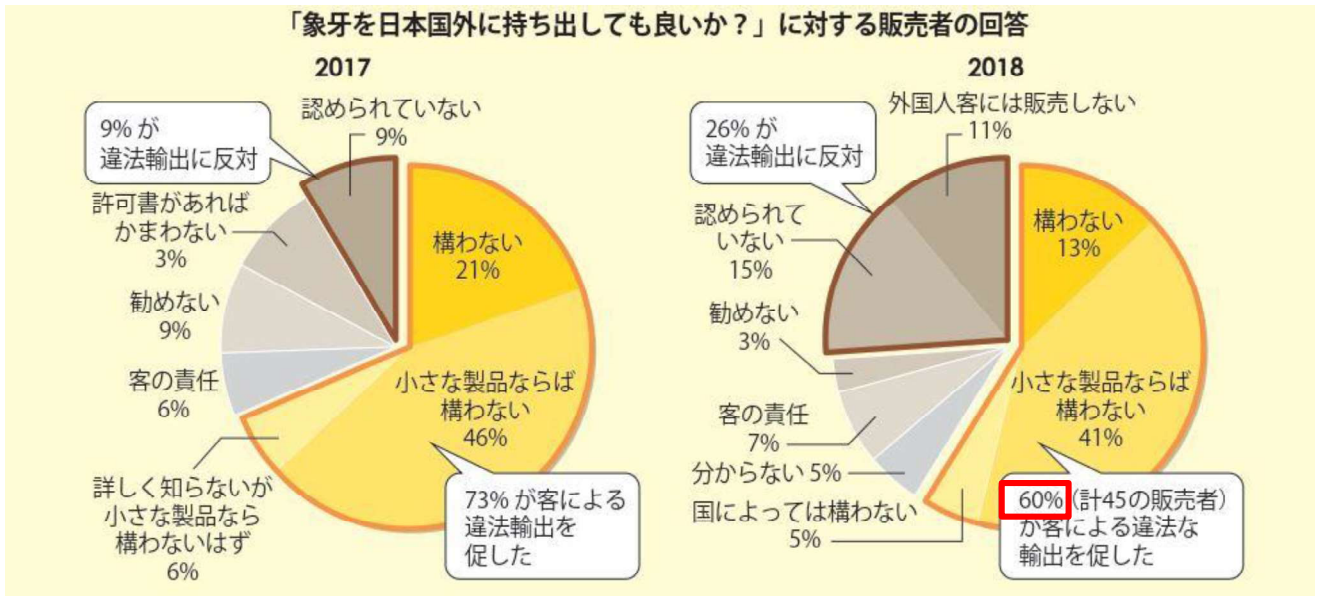
TRAFFIC市場調査2018年

TRAFFIC
the wildlife trade monitoring network

出典:

https://www.wwf.or.jp/activities/data/20180927_wildlife01.pdf

✓ 依然として継続する国外への持ち出し



2017年 (N=33), 2018年 (N=75)

※違法輸出に繋がる販売を拒否した販売者の増加も見られたが、半数以上が持ち出しについて許容 (2018年)

✓ 法令遵守状況はいずれも不十分

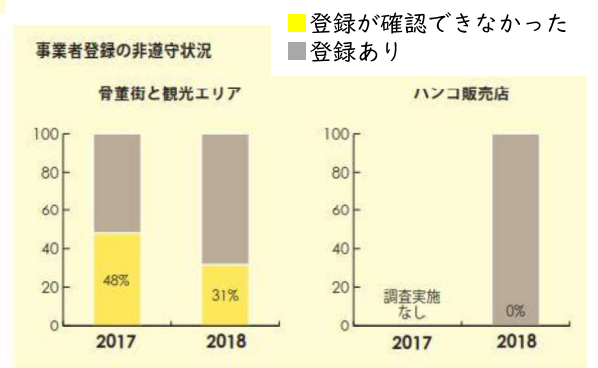
事業者情報の掲示について

調査期間：2017年5月～9月
2018年6月～8月



改正「種の保存法」が
2018年6月より施行開始

実際の事業者登録について

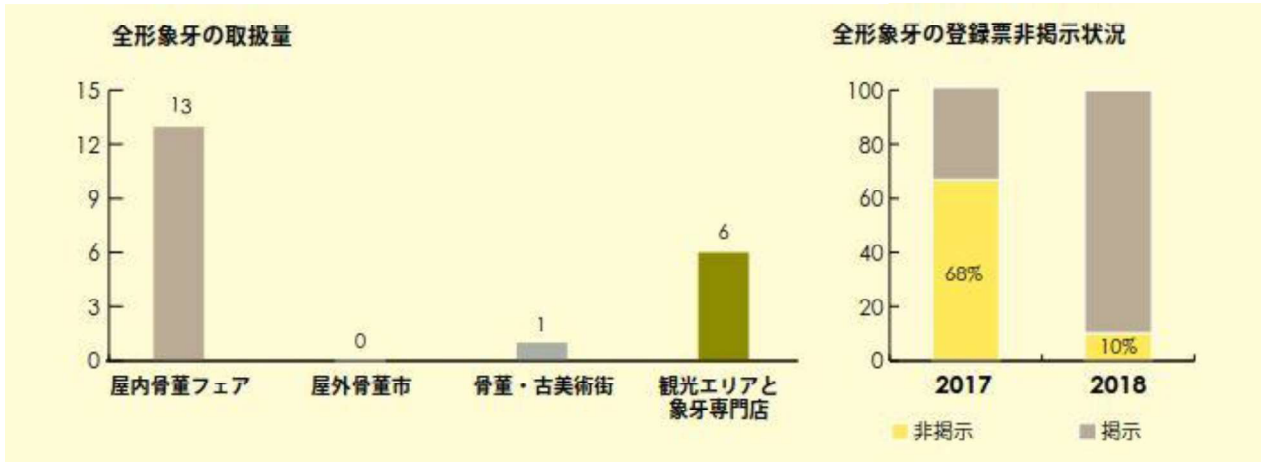


屋内骨董フェア (N=326,199), 屋外骨董市 (N=75,70),
骨董・古美術街 (N=29,40), 観光エリアと象牙専門店 (N=15,12),
ハンコ販売店 (N=43)

骨董街と観光エリア (N=40,53)
ハンコ販売店 (N=43)

※唯一ハンコ販売店の遵守率は高かった

✓ 全形象牙の登録票添付状況は改善された



右図 (N=37, 20)

しかしながら、
調査で確認した象牙製品5,000点以上のうち
全形象牙の割合は0.5%

★こうした調査結果(日本の市場の動向)は、海外メディアでも発信された(2017年12月)
The Guardian, The Washington Post, South China Morning Post

TRAFFIC市場調査2018年

TRAFFIC
the wildlife trade monitoring network

出典:

https://www.wwf.or.jp/activities/data/20180927_wildlife01.pdf

違法取引の実態(報道ベース:2017年~2019年)

✓ 事業者による違法取引事例(2017年)

- 6月・8月:相次いで摘発された古物商による未登録象牙の買取
➡いずれも不起訴
- 11月:中国への密輸出未遂で中国人2名逮捕 ➡実刑判決
※日本の事業者、関与した疑いで逮捕 ➡不起訴

✓ 多数の地域で起きた違法取引(2018年)

- 未登録象牙の取引
2月京都府(古物商)、7月岐阜県 10月宮城県(古物商)、
11月福岡県、12月大阪府(オークションサイト経営者)

✓ 新たな手口による国内の違法事例(2019年)

- 未登録象牙の取引
高齢者を対象とした「押し買い」という手口(群馬県の訪問買取業者)
※象牙に関係する事例はこれまで散見されていなかった

※国内取引の規制対象は全形象牙のみ

TTRAFFIC
the wildlife trade monitoring network

✓ 中国での摘発事例（2019年）

- 3月：広東省で7.48tの象牙を押収
- 1月～9月：甘肅省で、合計3kgの象牙を押収
- 10月：天津市で5.3kgの象牙を押収

✓ 中国における日本由来の摘発事例

- 2018年8月：長春税関（吉林省）で全形象牙1本押収
※日本からの郵便物だった（外郵局での摘発）
- 2019年4月：ウルムチ税関（新疆ウイグル自治区）で約52kgの象牙製品押収
※発覚した一部は日本のECサイト経由で入手したものだった

✓ 中国をとりまく周辺国での動向

- 2019年3月ベトナム：ダナン港で9.12tの象牙を押収
※コンゴ民主共和国から持ち込まれたものだった
- 2020年1月：日本での摘発（成田空港、実行は2019年7月）
※ラオス国籍者による象牙密輸出未遂
（運搬ルート：日本→ベトナム→ラオス）

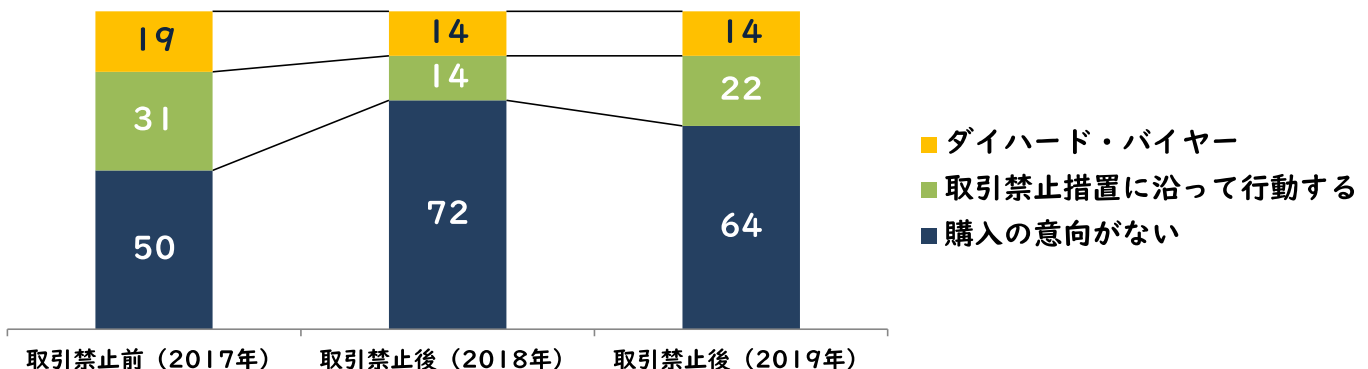
TRAFFIC
the wildlife trade monitoring network

最新の動向

✓ 2017年12月末をもって中国で国内取引禁止に

TRAFFIC・中国による本土での意識調査

- 規制内容を知った上でも象牙の購入意向のある中国人14%（2019年）



その他、

- 渡航先の国（日本含）で象牙を購入して中国へ持ち帰る事例の増加
- ベトナムから国境を越えた違法取引が深刻
- ミャンマーやラオスなど中国周辺国/地域での市場拡大の懸念

★中国での継続した需要と、周辺地域の違法取引拡大への懸念